



災害対応導入会議の様子（フィリピン）
Disaster Response Introductory Meeting (Philippines)

Newsletter

ソフトバンク株式会社のアプリ「つながる基金」で、下記SEEDSのロゴをかざすと簡単にご寄付いただけます。

●Table of Contents Vol.68 (Jan. & Feb. 2019)

- ・ バングラデシュ : バングラデシュ都市部におけるコミュニティ防災力向上事業
- ・ ミャンマー : ヒンタダ地区における学校・地域防災支援事業、移動式防災教室
- ・ フィリピン : セブ州における学校の防災管理推進支援事業
- ・ 日本 : 丹波市創生シティプロモーションパートナーシップ事業
- ・ 講師派遣
- ・ お知らせ
- ・ Bangladesh : Project on Capacity Building for Community-Based Disaster Risk Reduction in Urban Areas of Bangladesh
- ・ Myanmar : Enhancing Comprehensive School Safety in Collaboration with Community in Hinthada Township, Mobile Knowledge Resource Centre (MKRC)
- ・ Philippines : Support Project on Promotion of School Disaster Risk Reduction and Management in Cebu Province
- ・ Japan : Tamba City Revitalizing City Promotion Partnership Project
- ・ Delivery Lecture
- ・ Announcement



特定非営利活動法人SEEDS Asia

〒658-0072

神戸市東灘区岡本3-11-30-302

3-11-30-302 Okamoto,
Higashi Nada ku, Kobe, Japan

Tel : 078-766-9412

Fax : 078-766-9413

Email : rep@seedsasia.org

Web : www.seedsasia.org

Facebook : <https://www.facebook.com/SEEDS-Asia-206338119398923/>



バングラデシュ

バングラデシュ都市部におけるコミュニティ防災力向上事業

【JICA草の根技術協力事業】

北ダッカ市住民の災害対応能力の向上を目指し、コミュニティにおける防災活動を促進しています。

●ネットワーク構築の支援

SEEDS Asiaが活動を支援する防災コミュニティは、地理的には北ダッカ市各地に散らばっていますが、いざというときにお互いに助け合うことができるよう、昨年よりゆるやかなつながりづくりを始めています。1ヵ月～2ヵ月に一度の頻度で防災コミュニティのリーダーらが集まり、それぞれの地域での活動、問題やその解決への取組み等について話をする時間を設けています。ミーティングはそれぞれのコミュニティが持ち回りで幹事を務め、場所と昼食を提供しています。

現在、防災コミュニティは、ほとんどが住宅所有者協会を母体とする住民グループ。日々直面する問題も似ています。しかしこれまでは、住民グループ同士で集まり情報交換を行う場はなく、それぞれが手探りで運営を行ってきました。この集まりは、他コミュニティも同様の問題を経験していること、そしてどのように対処してきたかを知る非常に良い機会になっています。例えば、地域内での盗難事件の増加とCCTVの設置、建設中の建物の安全対策、未整備の道路の問題、火事の経験と消火器設置の呼びかけ、蚊の対策、新しく入ってきた住人に対する情報提供方法、等です。当然ながら、問題は似ていても解決方法は様ではなく、各コミュニティで自分たちにあったアプローチを見つけなければなりません。お互いに悩みを共有しアドバイスしあうことが励みになっています。また、この集まりを通して、高校時代の同級生に数十年ぶりに再会したという例や、前回のニュースレターで紹介したカーパラ地区のユースクラブのように自分たちの地域で新しくソサエティを立ち上げたという例が見られ、さまざまな形でつながりが生まれたり、復活したりしています。

災害時に重要になるのはこうした住民同士のつながりです。メンバーは、ダッカ市中のコミュニティを巻き込み、有事の際に助け合える強いネットワークを築きたいと意気込んでいます。この防災コミュニティのネットワークはDurjoge amraa Urban Platformと名付けられ、正式な組織としての設立に向け準備を進めています。私たちからの呼びかけではなく、防災コミュニティ自らの発案でこのようなネットワークが作られたことをとても嬉しく思います。今後の発展が楽しみです。

●楽しく防災意識向上！

北ダッカ市では、一般市民の防災意識は非常に低いのが現状です。災害や防災にまったく関心がなければ、行動は起きません。SEEDS Asiaは、バングラデシュの人々がドラマ好きであることも考慮し、住民が楽しみながら防災を学べるよう、ドラマ仕立ての啓発ビデオ制作に挑戦しました。

バングラデシュでも有名な俳優を起用して本格的な撮影に臨んだこのドラマは、日本に長く住む主人公が数年ぶりに故郷のダッカに帰り、つらい大地震の記憶を克服するために、仲間とともに地域での防災活動に取り組むというものです。恋あり友情あり、そしてコミュニティ防災ありの楽しいドラマになりました。ドラマでは、北ダッカ市の災害対応センターを舞台にコミュニティ防災のトレーニングを行うシーンを複数組み込み、今後北ダッカ市が防災啓発兼トレーニングビデオとして使用できるように作っています。また、コミュニティでどんな活動ができるのか具体的に紹介することで、視聴者が自分の地域での活動のイメージを持てるようにしています。北ダッカ市はもとより、SEEDS Asiaでも初となるドラマ制作。3月に開催するファイナルワークショップでのお披露目を予定しています。



ドラマ撮影現場

●ネットワーク構築の支援



南ダッカ市での火事（出展:The Daily Star）

2月20日深夜、南ダッカ市のチョークバザールという地域で、70名以上の死者を出す火災がありました。可燃性の高い薬品の倉庫から出火したと言われ、たちまち周辺の建物にも燃え移りました。建物が密集し、道幅が極めて狭いこの地域で起こったこの火災では、多くの人が逃げられずに犠牲になりました。南ダッカでは、2010年にも同様の火災で124名が犠牲になる事件が起きており、対策が取られぬまま悲劇を繰り返してしまう結果となりました。南ダッカに限らず、北ダッカ市でもスラムや住宅ビルでの火災が頻繁に発生しています。防火の意識と知識の向上が喫緊の課題であり、今後も市や防災コミュニティとともに取り組んでいかなければと強く感じました。



ミャンマー

ヒンタダ地区における学校・地域防災支援事業

【外務省 日本NGO連携無償資金協力事業】

教育と防災の拠点となる学校建設から地域の防災力向上まで、ハードとソフトを合わせた包括的な防災を推進しています。

●第11回ワークショップ ～避難所に泊ってみよう～

1月10日から11日にかけて、今後の避難所運営計画策定をより効果的に進めることを目的に、ナバーゴン村の防災委員会メンバーとSEEDS Asiaのスタッフが避難袋を持ち寄って学校兼シェルターにて宿泊避難体験をしました。第1回のWSから10回までの研修を通じて学んできた衛生への配慮や、スフィア基準に基づく水の供給量、委員会メンバーの動きや部屋の活用計画、避難所のルールの必要性などを実践によって体験しました。参加者の女性は「実際に避難してみると、持ってきたものだけでは足りないという事態や、プライバシーの課題、けが人や病人への対応など、今後の改善点について体験を通じて理解することができました」と感想を述べていました。この経験を踏まえ、今後の計画と実際の避難の際に参考にしていくこととしました。

●第12回ワークショップ ～日本のデルタ、輪中の暮らし共有～

1月23日、ナバーゴン村学校兼シェルターにて、愛知・岐阜・三重に広がる堤防に囲まれたゼロメートル地帯「輪中」を事例に日本の低地の暮らしについて紹介しました。過去の水害時の輪中の様子とナバーゴンの様子を写真で比較しつつ、共通点や相違点をみていきました。さらに、輪中と対比する形で、伊勢湾台風を事例に同じ低地でも埋め立て・干拓地の被害と比較してみると、地理的な条件は似ていても地域の普段の備えと対応力次第で災害リスクを削減できることを共有しました。同じく低湿地帯に暮らすナバーゴン村の住民たちは「地域のつながりや協力は自分たちの村も日本の輪中コミュニティに負けない自信があるが、写真で見た日本の堤防にはごみひとつ落ちていない！ごみを捨てないようにしようと思った」と話していました。



「輪中」について説明している様子

●全戸調査（第10回ワークショップ）のフォローアップ ～過去の水位記録の全家屋提示～

1月24日、前日の輪中について学ぶ研修を終え、災害記録の重要性について理解した村の防災委員会は、早速、2015年と2016年の洪水で到達した水位レベルを各世帯で記録する活動を展開しました。竹や木材でできた家は数年に一度再建しており、高さを覚えておけば次の再建時に参考になります。災害記録の伝承は次の雨季に来るべき洪水への備えを促し、次世代に過去の災害を伝える機会になっていきます。

●第1年次最終ワークショップ開催



最終ワークショップでの集合写真

2月19日、ミャンマー工学連盟（Fed.MES：2019年より前ミャンマー工学会から名称変更）と共催で掲題のワークショップを開催しました。同イベントには、ネピドーより建設省建物局ウーテインゾー局長、社会福祉救済復興省災害対応局からウータントウッスエ副局長、教育省からは基礎教育局ドー・キンマスウエ副局長他、在ミャンマー日本大使館から岩瀬景太書記官にご出席を賜り、開会式でお言葉を頂きました。同イベントでは、ナバーゴン村での学校兼シェルターの建設や研修内容について、成果を関係者に報告することはもちろん、災害リスクの高い場所での学校兼シェルター建設の必要性を確認し、その選定や建設のプロセス、モニタリングの状況を共有、今後の活動に活かすことを目的に実施しました。参加していた学校建設案件に関与しているドナーや実施機関、そして政府機関らも、過去の建設の教訓や現状、今後の計画などを共有いただき、シェルター建設についてはその設計に関わる最低基準などがまだ明確ではないという課題が抽出・共有され、今後のさらなる連携の必要性が共有されました。



ミャンマー

ヒンタダ地区における学校・地域防災支援事業

【外務省 日本NGO連携無償資金協力事業】

教育と防災の拠点となる学校建設から地域の防災力向上まで、ハードとソフトを合わせた包括的な防災を推進しています。

●社会福祉救済復興省災害対応局 国家災害対応局への訪問

社会福祉救済復興省災害対応局の国家災害管理研修センターを理事メンバー並びにSEEDS Asiaの職員が訪問し、包括的学校防災を地域住民と共に実施している事例として紹介し、今後の研修への視察研修地として活用いただくよう、今後のさらなる連携について協議しました。



事業について説明している様子

●ネピドー訪問：建設省 副大臣表敬訪問

2月20日、SEEDS Asia理事メンバーはミャンマー工学連盟会長と共に、建設省ウーチョーリン副大臣（於：首都ネピドー）を表敬訪問し、建物局ウーティンゾー局長のワークショップへの出席のお礼と共に成果報告を行いました。今後のシェルター建設に関わる基準の設定の必要性などについて協議した他、副大臣からはサイクロン・ナルギスや2015年の大洪水時の復興などについて、お話をいただきました。また、同副大臣が自ら執筆された「頑丈な建設物」についての著作を受け取りました。

●ネピドー訪問：社会福祉救済復興省 副大臣表敬訪問



社会福祉救済復興省 副大臣との集合写真

2月20日、SEEDS Asia理事メンバーは、同上会長と共に社会福祉救済復興省（於：首都ネピドー）を表敬訪問し、ウーソーアウン副大臣そして災害管理局ウーココナイン局長に事業への協力のお礼と共に成果報告を行いました。



ミャンマー

移動式防災教室

ミャンマーの都市部から農村まで、「届けよう、どこまでも」をスローガンに防災知識や技術の向上に取り組んでいます。

●移動式防災教室、10歳になります！

2008年のサイクロン・ナルギスの襲来まで、ミャンマーの教育カリキュラムには防災教育が組み込まれておらず、一般の人々は災害のメカニズムやその対処について学び、考える機会がありませんでした。こうした状況を背景に、2008年のサイクロン・ナルギスでは、約14万人に亘るデルタ地域の住民が死亡・行方不明となりました。この教訓を踏まえ、SEEDS Asiaとミャンマー工学連盟は、防災について見たり動かししたりして楽しく学ぶことのできる体験型の防災教材を搭載したトラック型の移動式防災教室（通称MKRC: Mobile Knowledge Resource Centre）を2009年に開発し始動しました。以降、移動式防災教室は10年に亘ってミャンマーの都市部から農村、老若男女問わず多くの方々に活用され、防災知識や技術の向上に寄与してきました。2019年2月末日までに、ミャンマー国内のヤンゴン地域、エヤワディ地域、マンダレー地域、ザガイン地域、ラカイン州を訪問し、計31,147名にリーチしています。今年は開設から10年の節目として、ミャンマー工学連盟、社会福祉救済復興省災害対応局、教育省基礎教育局、建設省建設局など、多くの防災関係機関他、関係者と共に移動式防災教室を振り返り、10歳の誕生日をお祝いしました。これからも「Reaching the Unreachable（届けよう、どこまでも）」をスローガンに、一人でも多くの方々に届けられるよう、これからもご協力をよろしくお願いいたします。尚、同移動式防災教室は一日300ドルでどなたでもご利用いただけるレンタルサービスを行っています。ミャンマーでの様々なイベントや活動の際には是非お声がけください。



フィリピン

セブ州における学校の防災管理推進支援事業

【JICA草の根技術協力事業】

学校における災害リスク管理力の向上を目指した取り組みを実践しています。

●災害対応導入会議

昨年11月よりパイロット校にて災害対応マニュアル導入会議を実施してきましたが、2月をもって全てのパイロット地区10地区で導入会議を終えました。パイロット校教員、教育省防災管理コーディネーター、セブ州および市の防災管理局、警察、消防、コミュニティ、PTA、生徒会が参加し、SEEDS Asiaは災害対応マニュアルの目次案を紹介しました。関係者からは、それぞれが実施している学校防災関連プログラムが紹介されました。また、学校と防災関係者が、災害対応マニュアル作りで互いに期待することやコミットメントを発表し合いました。教育省地区防災管理コーディネーターは、「技術的サポートと、防災管理についての研修を提供したい」と述べ、コミュニティからは、予算・防災用品・人手、警察からは、避難訓練中の安全確保、さらに消防からは、火災避難訓練を通じて消防スキルを提供していく、との心強い発言がありました。学校は、「他のステークホルダーとの協力や調整、活動に取組む時間や努力を惜しまない」と、意欲的な姿勢をみせてくれました。今後は、7月ごろ予定している総合防災避難訓練に向けて、学校防災管理指導チームを中心に災害対応マニュアルのフォーマットを決め、ワークショップにて学校に必要な研修の実施や、マニュアル作成を進めていきます。



災害対応導入会議の様子

●学校防災管理指導チームとの会議



学校防災管理指導チームとの会議の様子

1月30日に、タリサイ市内にて学校防災管理指導チーム11名との会議を行いました。学校における定期的な安全点検活動強化のため、教員に対し、行動計画作成を含めた指導を行うことや、実施を予定している災害対応マニュアル作成ワークショップの計画について再度話し合い、全員が共通の認識をもって活動に取り組んでいくことを決めました。学校防災管理指導チームからは、「他の地区の学校の安全点検にも参加し、活動の水準を定めたい」との提案があったため、今後の活動に加える予定です。

●セブ州防災管理局の会議

1月23日にセブ市内でセブ州防災管理局と会議を行い、5月に行われる予定の災害対応ワークショップの内容について協議しました。「活動目標100%達成のため、企画、調整、参加率、外部スピーカーの決定など、準備を入念にしたほうがいい」とのアドバイスをいただきました。今後、学校防災管理指導チームと協力し、参加者にとって有意義なワークショップとなるよう、準備を進めていきます。



セブ州防災管理局との会議の様子



日本

丹波市創生シティプロモーションパートナーシップ事業

【丹波市】

復興スタディツアーを通じ、豪雨災害からの教訓を伝え、丹波市の新たな“好流”を促進します。

●奈良女子大学学生向けのスタディツアー実施

2月7日、奈良女子大学の大学院生を対象にスタディツアーを実施しました。住環境学を専攻している留学生3名と先生がお越しになりました。災害をきっかけに食を通じた地域起こしの活動を始めたグループのお話を聞きながらランチをし、2014年8月の豪雨災害以降、現地災害対策本部長代理、元復興推進部長、現シティプロモーション担当理事を歴任されている方の講義の後、自治体で森林管理を進めている地域の自治会長のお話を伺い、活動場所の見学をしました。

「災害からの復旧は、丹波市が本来持っている課題を乗り越えることにつながるのだと思った」や「丹波市は、今後高齢化という課題をどのように乗り越えていくのか、興味深いです」など、丹波市の復興プランやシティプロモーションに絡む鋭いコメントがたくさん聞かれました。また、同席して下さった「丹波市木の駅プロジェクト」の方からは「世界的に見ると森林伐採はとても重大な問題ですが、国内の森は適切に間伐しないと土砂災害などにつながります。住環境学を専攻している皆さんには、是非国産木材の使用を積極的に取り入れるよう呼び掛けていって欲しい」という提案がありました。



自治会による森林活動の変遷を学ぶ参加者

講師派遣

●アクサユネスコ協会減災教育フォーラム



プログラムのパンフレット

<詳しくは画像をクリックしてご覧ください。>



講演の様子

アクサユネスコ協会減災教育プログラムは、日本全国から選抜された学校の先生を対象に、減災・防災教育の研修会を実施し、その後先生方に防災教育の実践をしていただくプログラムで、今年5回目の実施となります（主催：日本ユネスコ協会連盟、協力：アクサ生命保険株式会社、プログラムコーディネーター：及川幸彦先生）。SEEDS Asiaもプログラム開始当初から研修のお手伝いをさせていただいており、毎年勉強させていただいています。今年は、新たに一般にも開放したフォーラムが2019年2月23日東京で実施され、その中で「アジアから学ぶ減災教育」と題してSEEDS Asiaの防災教育の取組みについて発表をしました。日本とは全く違うアジアの状況の中での防災教育。日本の先生方にはどう感じていただけたのでしょうか。

お知らせ

●JICA関西「世界にひろがる日本のBOSAI展」

12月14日～3月10日の期間中、1月17日の「ひょうご防災の日」に合わせて、JICA関西にて「世界にひろがる日本のBOSAI展」が開催され、SEEDS Asiaのバングラデシュ、フィリピンでの活動写真も展示されました。校外学習の一環で観に来てくださった学生や先生方もいらっしや、「今、学校で社会情勢や貧困の改善方法を考える授業をしているので、本当に勉強になりました。これからの授業に活かしたいと思います。」などとコメントを寄せてくださいました。ご来場いただいた皆様、また多くの方々にSEEDS Asiaの活動を知っていただく機会をくださったJICA関西様に感謝申し上げます。



Bangladesh

Project on Capacity Building for Community-Based Disaster Risk Reduction in Urban Areas of Bangladesh [JICA Grassroots Technical Cooperation Project]

●Supporting DRR Community Network Building

The DRR communities working with SEEDS Asia have started strengthening the relationship to help each other in case of emergency regardless of geographical distance across Dhaka North City. DRR community leaders gather once a month or every other month to share their activities and initiatives towards overcoming challenges in each community. The meetings are organized by each community in turn, and venues and lunches are also provided by them.

Most of the DRR communities consist of residential groups based on the homeowners' association, hence their daily challenges are also similar. However, they did not have a platform to come together and exchange information. The leaders' networking meeting is a great opportunity for them to know that the other communities are also facing the same challenges, and learn how the others solved these problems. Their challenges and solutions are such as: increasing thefts and installation of CCTV, safety measures of the buildings under construction, undeveloped road, experience of fire and promoting installation of extinguishers, protection from mosquito, providing information to new residents. Even though the challenge itself looks similar, each community needs to find their own way to solve the problem, but still the opportunity helps them to share the challenges and give advices to each other. This meeting builds connections in many ways such as reunion with old friends, and one of the communities: a youth club of Kha para area is encouraged to establish a new society in their community as the last Newsletter of SEEDS Asia featured. Strong relationship among residents is a key in times of disaster. The community leaders are willing to involve communities all over Dhaka City and build a strong network to help each other in the event of a disaster. The network of this DRR community is named Durjoge Amraa Urban Platform and preparing for the establishment as an official organization. SEEDS Asia is glad to see the people's voluntary initiatives and looking forward to seeing more improvement.

●Raising DRR Awareness with Fun!

People's awareness of DRR in Dhaka North City is quite low. No action would be taken if people are not interested in DRR. SEEDS Asia launched a drama film production for the citizens to enjoy learning DRR since people in Bangladesh love watching dramas. The drama cast by Bangladeshi famous actors features a main character who lived in Japan for years and comes home in Dhaka City for the first time in years and works on DRR activities with his associates to overcome his tragic memory of a large earthquake in Japan. The drama is not all about community-based DRR but also involves love and friendship. The shooting was conducted in the Emergency Response Center in Dhaka North City with several scenes of community-based DRR trainings to be utilized as the city's awareness training video. Specific activity examples are also given for the audience to have clear image of what they can do in their communities. Drama production is the first challenge for both Dhaka North City Corporation and SEEDS Asia. It will be made public in the final workshop in March.



Drama shooting

●Catastrophic Fire in South Dhaka City



After the fire in South Dhaka City

<The Daily Star>

Midnight on 20th February, a massive fire broke out in Chowk Bazar in South Dhaka City which killed over 70 people. The fire was from a chemical warehouse and it moved to other buildings in a few seconds. A lot of people could not run away from the fire since the buildings are closely packed around this area. In Dhaka South City, a total of 124 people died from a similar fire in 2010 but no safety measures were taken after that. These tragic accidents also often occur in slums as well as residential buildings in Dhaka North City. This clearly shows that raising awareness and increasing knowledge of DRR are urgent tasks, and we need to continue working with the city and DRR communities to prevent such tragedy.



Myanmar

Enhancing Comprehensive School Safety in Collaboration with Community in Hinthada Township

【Ministry of Foreign Affairs of Japan (MOFA)】

●The 11th Workshop: Let's Stay in the Shelter!

From 10th to 11th January, Nabekone Village DRR Committee members and SEEDS Asia staff had an experience to stay in the school-cum-shelter with their own emergency bags to promote designing the evacuation management plan more effectively through practical training. They experienced and learned sanitation-friendliness which they learned from the 1st to 10th workshop; and the amount of water supply based on Sphere Standards; as well as each committee member's role and the allocation plan of rooms; and also the necessity of the rules at the shelter. A woman who participated in the event commented "I found the future improvements such as: the emergency items which I brought were not enough to fulfil the needs; challenges of privacy; and how to care the injured or sick persons through this experience." This experience will help to develop the plan and will be referred in case of actual evacuation.

●The 12th Workshop: Introduction of Life in a Low Ground Community in Japan

On 23rd January, a lecture "Life in a low ground community in Japan (the "Waju", a zero-meter area surrounded by dykes among Aichi, Gifu and Mie Prefecture)" was introduced to the Nabekone villagers. Similarities and differences were identified by comparing pictures of the village and those of the "Waju" in flooding situations. Comparing the pictures of "Waju" and those of other kinds of low grounds such as landfill sites and reclamation areas during the Ise-wan Typhoon (Vera) in 1959 gave an idea that despite having similar geographic conditions, community's preparedness on a regular basis and response in emergencies will surely reduce the risk of disasters. A resident of Nabekone village in a wetland expressed: "I am pretty sure that we in our village have the same level of connectivity and cooperation among the residents as those of the "Waju" residents, but an obvious difference is that the dykes in Japan are clear of trash! This makes me promise that I will not chuck trash everywhere."



SEEDS Asia staff introducing "Waju"

●Follow-up on the Household Survey (conducted on the 10th Workshop)

On 24th January, DRR committee members who understood the importance of disaster record through the lecture of "Waju" on the previous day, started the activity to make a record of the water level in the floods in 2015 and 2016 at each household. The houses made of bamboo and woods are reconstructed once a few years, so the record would help their reconstruction. Disaster record will promote the preparedness for the coming flood in rainy seasons, as well as be the opportunity to tell the next generation about the past disasters.

●The 1st Year Final Workshop



Group photo at the 1st year final workshop

On 19th February, the titled final workshop was conducted in collaboration with Federation of Myanmar Engineering Societies (Fed.MES). U Thein Zaw, Director General, Department of Building, Ministry of Construction; U Than Htut Swe, Deputy Director General, Department of Disaster Management, Ministry of Social Welfare Relief and Resettlement (DDM/MoSWRR); Daw Khin Ma Swe, Deputy Director General, Department of Basic Education, Ministry of Education; and Mr. Keita Iwase, Second Secretary, Economic and Development Assistance Section, Embassy of Japan attended the event and extended their best wishes at the opening. At the event, the overview and outcomes from the project such as construction of school-cum-shelter and DRR trainings in Nabekone Village were presented. At the same time, the strong

needs of the construction of school-cum-shelter in vulnerable areas to disasters in the country was confirmed through other presentations from concerned departments and organizations. Related aid agencies and the government organizations shared their experiences of construction and its current condition as well as their plans. The concerns of process of the construction and the monitoring status in general were also shared to improve future implementations among all organizations which implement any school construction projects. Furthermore, the lack of minimum standards of the shelter construction in the country was also shared as concerns, and the all participating organizations agreed to strengthen cooperation and coordination as school construction working group as sub group of Disaster Preparedness Response Education Working Group.



Myanmar

Enhancing Comprehensive School Safety in Collaboration with Community in Hinthada Township

【Ministry of Foreign Affairs of Japan (MOFA)】

●Visiting Disaster Management Training Centre (DMTC)

Board members of SEEDS Asia and Myanmar project team visited Disaster Management Training Centre (DMTC) in Hinthada township to introduce our comprehensive school safety project with community as a model case to spread throughout the country!



Introducing SEEDS Asia's project

●Courtesy Visit to Deputy Minister, Ministry of Construction

Board members of SEEDS Asia and Fed.MES paid a courtesy call to U Kyaw Linn, Deputy Minister, Ministry of Construction to make an accomplishment report as well as to express our appreciation for U Thein Zaw, Director General, Department of Building's attendance at SEEDS Asia's final workshop. The necessity to develop the standards of shelter construction was discussed, and also the story of recovery from Cyclone Nargis and the flood in 2015 was delivered by U Kyaw Linn. SEEDS Asia gladly received his publication "Resilient Buildings" as well.

●Courtesy Visit to Deputy Minister and Director General of Department of Disaster Management, Ministry of Social Welfare Relief and Resettlement



Group photo at Ministry of Social Welfare Relief and Resettlement

Board members of SEEDS Asia and the President of Fed.MES paid a courtesy visit to H.E. U Soe Aung, Deputy Minister, Ministry of Social Welfare Relief and Resettlement; and Dr. U Ko Ko Naing, Director General of Department of Disaster Management to express our sincere appreciation to the supports from the ministry as well as to report the achievements and the coming activities to promote comprehensive school safety in the country.



Myanmar

Mobile Knowledge Resource Centre (MKRC)

●Mobile Knowledge Resource Centre (MKRC) Turns 10 Years Old This Year!

Until the cyclone Nargis hit Myanmar in 2008, Disaster Risk Reduction (DRR) education was not implemented under the school curriculum in the country. Thus there was no opportunity for the people to learn the basic mechanisms of disasters or the tips to respond to disasters. As a result of these circumstances, approximately 140,000 people in delta region were killed or missed from the Cyclone. Based on the painful experiences from the disaster, SEEDS Asia and Fed.MES developed and launched Mobile Knowledge Resource Centre (MKRC) in October, 2009 in a shape of truck loaded with DRR hands-on learning tools. The wide range of beneficiaries of men and women of all ages in urban and rural areas received awareness training in Yangon Region; Ayeyarwady Region; Mandalay Region; Sagaing Region; Rakhine State until today. The knowledge and skills on DRR in total of 31,147 people have been enhanced as of the end of February, 2019. DRR concerned government organizations and institutions such as: Fed MES; DDM/MoSWRR; Department of Basic Education, Ministry of Education (DBE/MOE); and Department of Buildings, Ministry of Construction (DOB/MOC) gathered to look back at the history of MKRC and celebrated its 10th anniversary. SEEDS Asia and Fed.MES have re-determined ourselves to keep delivering DRR training by MKRC with the slogan of "Reaching the Unreachable". MKRC is available to be lent to anyone for US\$ 300 per day basis. Please feel free to contact us for any event in Myanmar, should you need additional information.



Philippines

Support Project on Promotion of School Disaster Risk Reduction and Management in Cebu Province

【JICA Grassroots Technical Cooperation Project】

●Disaster Response Introductory Meetings

SEEDS Asia started introductory meetings for Disaster Response Manuals in pilot schools from November last year, and finished conducting meetings in the all ten pilot areas in February this year. Teachers of the pilot schools, Department of Education (DepEd) Division Disaster Risk Reduction and Management (DRRM) Coordinator, DRRM Office of Local Government Units (Cebu Province and Cities), Philippine National Police (PNP), Bureau of Fire Protection (BFP), Community, Parent-Teacher Association, and Supreme Pupil Government participated in those meetings. SEEDS Asia presented an outline of Disaster Response Manuals, and stakeholders presented their School DRRM-related programs. Stakeholders and pilot schools then presented their expectations and commitments regarding this Disaster Response Manual crafting. DepEd Division DRRM Coordinator announced that they will provide technical assistance and capacity building on DRRM. Community said it is willing to provide financial assistance, DRR equipment and manpower. PNP will assist the schools in securities during simulation exercises. Firefighting skills through fire drill will be taught by BFP. School made a commitment to provide full cooperation, coordination, time and effort. School Disaster Risk Reduction and Management Instructing-Team (SDRRM-IT) and SEEDS Asia will make formats of Disaster Response Manuals, give necessary trainings to teachers through a workshop, then teachers will draft a manual to be tested during simulation exercises which will be conducted around July 2019.



Disaster Response Introductory Meeting

●Meeting with School Disaster Risk Reduction and Management Instructing Team (SDRRM-IT)



Meeting with SDRRM-IT

On January 30th, SEEDS Asia held a meeting with eleven members from SDRRM-IT in Talisay City. Attendees discussed planning for regular School Safety Inspections using crafted Safety Inspection Manuals, and Disaster Response Manual crafting planning. We agreed to have a mentoring for teachers including an action plan making to strengthen inspectoral activities, and to have another meeting to plan a workshop for Disaster Response Manuals. A member of SDRRM-IT proposed a cross visit of schools in order to benchmark schools' Safety Inspections. SEEDS Asia will add this activity in its plans.

●Meetings with Cebu Provincial Disaster Risk Reduction and Management Office (DRRMO)

On January 23rd, SEEDS Asia had a meeting with Cebu Provincial Disaster Risk Reduction and Management Office (DRRMO) in Cebu City, and discussed the content of a workshop about Disaster Response which will be held on May. They gave advice such as: it is important to ensure well preparations for the activity, from planning, coordination, attendances of target participants, identification of external speakers, and the assurance of 100% achievement of the designed objectives for the workshop activity. SEEDS Asia will prepare the workshop together with SDRRM-IT accordingly to achieve those targets.



Meeting with Cebu Provincial DRRMO



Japan

Tamba City Revitalizing City Promotion Partnership Project

【Tamba City, Hyogo】

●Study Tour for Students of Nara Women's University

On 7th February, three graduate students and an associate professor from Nara Women's University visited Tamba City. All of the students major in life environmental studies. They first enjoyed lunch and a talk with a group who started their activities of vitalizing the community through food since the occurrence of the torrential rain disaster in August 2014. A lecture followed which was provided by a City official who has been the former Local Disaster Response Headquarters' acting manager at the time of the 2014 disaster, former Director of Disaster Recovery Promotion Department, and current City Advisor for City Promotion. Lastly, they visited a community leader who promotes forest management as an initiative participated by the entire members of a self-governing organization.

Comments presenting critical points of view of the participants were heard, such as: "Their disaster recovery is not merely a recovery process, but rather something to overcome the core challenges that the City has been to encounter," and "How will Tamba City energize the aged society?", which are strongly relevant to the City's Disaster Recovery Plan and City Promotion initiatives. A member of the "Tamba City Wood Station Project" was present at the discussion with the community leader and emphasized to the participants: "Deforestation is a huge problem worldwide, but in Japan, if we are not to properly implement tree thinning, that could lead to sediment-related disasters. May I suggest to you, as students who are engaged in life environmental studies, to proactively promote the use of Japan-made woods?"



Participants learning transition of forest management from a community leader

Delivery Lecture

●AXA UNESCO Associations Disaster Risk Reduction Education Forum



Presentation of SEEDS Asia's project

AXA UNESCO Associations Disaster Risk Reduction Education Programme provided a training workshop of Disaster Risk Reduction (DRR) and DRR education for the teachers who were selected from around the country to encourage them to implement DRR education at their schools afterwards. This year was the 5th training since its first session in 2014. (host: National Federation of UNESCO Associations in JAPAN, cooperation: AXA Life Insurance Company, programme coordinator: Dr. Yukihiro Oikawa) SEEDS Asia has cooperated to the programme since the beginning and learned something new every year at the same time. This year, a forum which was opened to the public was also held in Tokyo for the first time on 23rd February. SEEDS Asia introduced our initiatives of DRR education themed on "Learning DRR education from Asian countries" at the forum. We are grateful if teachers enjoyed learning the difference of DRR education in Asian countries and Japan.

Announcement

●BOSAI Photo Exhibition at JICA Kansai

BOSAI Photo Exhibition (Initiatives of Disaster Risk Reduction from Japan to the World) had been held from 14th December, 2018 to 10th March, 2019 at JICA Kansai as a memorial event of the Great Hanshin-Awaji earthquake which occurred on 17th January, 1995. Photos taken in the countries where SEEDS Asia has developed projects of Disaster Risk Reduction were displayed. Some students and teachers visited as their field trip and left comments such as "I have classes to let students think about social issues and solutions for poverty at school. I learned a lot of things today and I would like to apply the knowledge in my classes." We thank to all visitors and JICA Kansai who gave us this opportunity to share our activities.